

将来をしっかり考えよう（校内で学生のみなさんに話したこと）

本校がかかわる海運や物流、情報や機械システム産業の様相は、常に国際政治や経済社会の縮図、また世界はより深刻なエネルギーや食料の問題に直面しています。社会経済は、気候変動と環境変化、国際社会が織りなす紛争、物材の大量消費国の動向、あるいは金利政策などの影響を受けて大きく変動しています。

COVID-19、新型コロナウイルス感染症の拡大は、情報、物流、ロジスティクスに対する人々の関心を高めたと考えています。日本では、海洋や国民の生活基盤を支えている海運に対する人々の関心が薄いと心配されてきました。海洋基本法にもとづき 2018 年 5 月に閣議決定された第 3 期海洋基本計画では、「海洋人材の確保・育成を取り巻く環境として、人口減少・少子高齢化やグローバル化等が大きな影響を与えている。」とし、「優秀な人材を確保する上で、海洋人材を目指す若者が、海洋に関連する高校、高専、大学等に進学することを通じ、魅力ある就職先を明確にしていくことが必要である。」としてきました。小中高の新たな学習指導要領実施に伴って海運の記載も社会科に加わっています。5 年ごとに策定される基本計画、来る第 4 期では、脱炭素・DX に対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化、慢性的なエネルギー問題を抱える我が国にとって必要な洋上風力や再生可能エネルギーの利用、資源調査に必要な海のドローン・水中ロボットの持続的な開発、安全と防災などに社会の関心が集まっているようです。商船学科はもとより、情報機械システム工学科の学生諸賢も、海洋、環境、エネルギー、システムの安全などの分野に関心を深くもってほしいと思います。

そして新たな学期が始まっています。志を新たにして向上心をもって毎日を送ってほしい。もとい「何のために学校に来ているか。」要は「目的意識をもて」ということ。生き抜くための大切なものを磨き、身に付けに来ています。将来の進路に希望を託して中学校生徒から学生となって高専に。高等学校は後期中等教育機関です。高専は大学・短大とならぶ高等教育機関です。

惰性に流されず、時には原点に戻って自分を見つめなおす。そうすれば生活にはりがでて日常の生活態度も自ら変わってきます。校長先生もそう心がけています。

そこで大切なことを 2 つ述べよう。

その一つは「自分も誰でも完全な人はいない。」ということ。だからこそ先生や友人の言葉

に素直に耳を傾けることができ、友人や先生の良いところを進んで吸収することもできます。

二つ目は、孤独に耐える力をつけることです。伸び盛りの学生のみなさん、悩み多き年代なので進んで相談するのは大切です。迷ったら相談してください。しかし内容によっては孤独に耐えて自らの生きる道を求めることも必要です。集団の中で埋没して安心を求める、あるいはつっぱりや目立ちたがり屋も結局は弱虫で真の自己を見つけることには役立ちません。ただ、孤独は孤立ではないことを付け加えておきます。一回限りのかけがえのない自分と人生をもっと磨く努力をしてほしいと思います

ノーブレスオブリージェ「高貴なる者の使命」という言葉があります。厳しい道德観、倫理観をもって人々を守り、助けなければならないということです。

みなさんのバックヤードには、2025年で創基150年を迎える鳥羽商船高専の総数8000人に近づく卒業生・先輩が築いた輝かしい業績があります。みなさんも選ばれた人たちです。ノーブレスオブリージェを実践して行ってほしいと思います。